学校だより

10月号

令和５年（２０２３年）
９月２９日（金）

横浜市立洋光台第二小学校

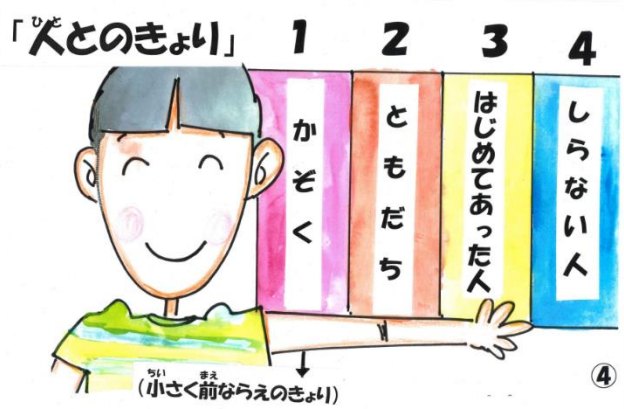
人との距離感を考える

学校長　野村（のむら）　光（ひかる）

10 月に実施予定の個別支援学級の宿泊体験学習保護者説明会が、先日校内で実施されました。今回の宿泊体験学習で、今年度予定されている全ての宿泊学習が終了します。5 月の 4 年生「上郷(栄区)森の家」から始まり、6 月には 6 年生の「日光」、そして 7 月には 5 年生が「富士」へとそれぞれ出かけました。普段体験できないことに挑戦したり、家族から離れ、友だちと一緒に同じ空間で寝泊まりをしたり…この経験を通し、子どもたちは人と協力してやり遂げる成就感や喜びを味わい、時には自分を抑えて我慢することを学び、一回りも二回りも大きく成長したことと思います。コロナ禍では、感染症拡大防止のために行動制限がかかり県外への移動ができなかったり、宿泊体験学習自体が実施できなくなったりしたこともありました。今年はその心配もなく、学校を離れての体験学習が実施された訳です。個別支援学級の子どもたちはそれぞれ所属する学年の体験学習にも参加するのですが、今回は個別支援学級の仲間だけで過ごします。そして、宿泊する場所は学校です。いつもみんなで勉強したり、遊んだりしている教室に泊まるこの体験学習は、きっと特別な体験になると思います。

さて、冒頭の説明会に引き続き、丸山台小学校の非常勤講師で横浜市性教育研究会に所属する小島惠子先生をお招きしての講演会を行いました。人との距離感の取り方やプライベートゾーンなどについて、紙芝居を使い分かりやすくお話を聞くことができました。腕をめいっぱい伸ばした距離は、初めて会う人と話すとき、脇をしめ指先から肘までの距離は家族との距離…など子どもが理解しやすい「前に倣え」のポーズを使って相手との距離について教えていただきました。

コロナ禍の 4 年間は「密」になることが御法度となりました。これは感染予防のために必要なことであったと思います。ソーシャルディスタンス、マスク越しの会話、対面をしない食事、黙食…そして、我々教職員の研修なども直接参集せずにパソコンという道具を通してリモートで行うことが主となっていました。コロナ感染症を予防するために人と人との物理的な「距離間」を取る日常が、いつしか心理的な「距離感」にも影響を与えているのではないでしょうか…。現在、人との距離の取り方が分からずに、ストレスを感じたり、悩んだりする子どもが増えていることも聞きます。今回の小島先生のお話は、人と人との「距離カン」を考える貴重な機会となりました。



10 月 14 日の YSF(運動会)が目前です。学校では、日々、熱中症予防に配慮し、WBGT の値を気にしながらの練習が続いています。熱中症対策に対する各ご家庭のご協力に感謝いたします。また、今年は久しぶりに多くのご来賓をお招きしての YSF となります。コロナ前の本校での取り組み経験がない職員が増える中、不備がないように実施したいと考えています。そして子どもたちにとって思い出に残る YSF にしたいと思います。引き続きのご協力をお願いいたします。